

# 平成29年度英真学園高等学校 学校評価

## I. めざす学校像

生徒一人ひとりが、自分と違う他者の個性・特性を互いに認め、共生・共助のもと楽しく豊かな学園生活を過ごすことができる学校をめざす。

楽しく豊かな学園生活を過ごせるよう、基本的な生活習慣の確立を図り、社会的規範やルールやマナーを守り、他者の模範となる生徒や社会的組織のリーダーとなる生徒を創り出す学校をめざす。

基礎的な学力・知識を確実に身に付け、さらに発展的な学力を身に付けることができるような学習環境づくりを行なうとともに、卒業後の社会で生活できる人間力や問題解決能力を養う学校をめざす。

地域との連携を持ち、信頼され愛される学校をめざす。

## II. 中期的目標

1. 生徒の豊かな人間性を育み、社会で有用な役割を果たせる人間力の育成を図る。

平成29年度の重点目標

- ① 基本的な生活習慣の確立をはかり、遅刻・欠席をしない指導を行なう。
- ② 転学や退学する生徒の減少を図る。
- ③ 生徒の自尊心を育成し、学校での活躍の場を持つ指導を行なう。
- ④ 社会で活躍できる力をつけるため、HR活動・生徒会活動・クラブ活動の活性化を通して、生徒リーダーの育成を図る実践を行なう。

その他

- \* 挨拶の励行、学校のルールや社会規範を守る自律心を持たせるように指導する。
- \* 社会共生できる力を育む実践と人権尊重の意識を高める実践を行なう。
- \* キャリア教育の実践により、自己実現をめざしてのライフプラン作成能力の育成を図る実践を行なう。

2. 生徒の学力育成と進路保障を図る

平成29年度重点目標

- ① 卒業時の進路決定率を高める取り組みを継続して進める。
- ② 四年制大学進学者100名以上を目指す。

その他

- \* 生徒の学力の到達度の正確な把握と個々の生徒の学習状況に応じた指導の実践を行なう。
  - ・ マナトレを利用した基礎学力の向上の推進を行なう。
  - ・ 夏・冬・春に進学講習会、夏に進学合宿、グレードアップセミナーの開講により更なる学力向上を目指す。
- \* 教員の授業力の向上と教員の連携による授業の充実によって「わかる授業」の実践を行なう。

3. 地域に根付いた学校を目指す。

- \* 淀川の環境保全活動や地域の行事への生徒参加により、地域に愛される学校を目指す。

### Ⅲ. 自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見

学校評価（自己評価） 平成 30 年 3 月実施分

教職員 調査対象 専任教員・専任事務職員 回答数 56 名

調査方法 4 段階評価

A：よくあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

#### 調査項目の分析

年度当初の方針会議や職員会議において校長や各分掌から提議された重点的な取り組み（重点目標）を加えて 46 項目にて学校評価（自己評価）を行なった。

肯定的な結果が出ている項目は 29 項目あり、特に重点目標として取り組んだ 6 項目中 5 項目については、教職員は全て高い評価を行っている。基本的な生活習慣の確立としての遅刻者数を減らす取り組み、進路未決定率を下げる取り組み、四年制大学進学者数を 100 名以上とする取り組み、生徒リーダー育成の取り組みでは 75%程度が肯定的に捉えている。

その他肯定率が高いものは、教育面では、人権教育・環境教育・教員の授業の事前研究があげられる。生徒指導面では、組織的な生徒指導体制、家庭との連携、カウンセリング体制、進路指導体制と保護者との連携があげられる。組織面においては、教員と事務職員間の連携が潤滑であること、地域との交流、生徒募集への組織的取り組み、教育課程の実践、教員間の連携による教育実践、学校ホームページの活用、生徒把握と生徒の実態に合わせた学習指導があげられる。

肯定率が低かった項目のうち、生徒への対応に関するものとしては、学校の校訓をどのように体現させるか、支援を要する生徒、欠席がちの生徒への取り組みがあげられる。学校組織としては、組織運営や危機管理体制、研修と研修成果の共有について（改善に取り組む必要性がある。）

#### 学校評価委員会からの意見

平成 29 年度学校評価について校務運営委員会を学校評価委員会とし検討した。

- ・教職員は、学校運営・組織運営を意識し取り組むことが出来ている。
- ・教職員は、本校の教育活動を十分に理解し取り組むことが出来ており、自己評価の肯定度も高くなっている
- ・前年度より自己評価の肯定的とする率が低下しているところも見られる。
- ・学校管理職は、さまざまな場面において、これまで以上のリーダーシップが求められる。

### Ⅳ. 学校関係者評価

保護者代表として PTA の役員・同窓会の役員から、学校評価（自己評価）および学校の状況について意見をいただいた。

- ・生徒の活躍から学園としての成長が著しく見える。
- ・学校行事・クラブ活動で生徒達が積極的に取り組んでいる姿が見える。
- ・学校訪問時、生徒たち（特にクラブ部員）の気持ちよい挨拶が強く印象に残る。
- ・学校に落ち着きがあり、子ども達が楽しく学校生活を過ごしている。
- ・今後もますますの発展が遂げられえよう、教職員の皆さんにも期待しています。

## V. 本年度取り組み内容および自己評価

中期的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
<p>1 生 徒 の 豊 か な 人 間 性 を 育 み</p> <p>社 会 で 有 用 な 役 割 を 果 た せ る</p> <p>人 間 力 を 図 る</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<p>遅刻する生徒の減少を図るため、生徒指導部・学年が中心となり目標値を設定し、達成の為に取り組んだ。</p> <p>全学年による無遅刻週間の設定 学年による無遅刻週間の設定 遅刻者に対する指導の励行</p>	<p>年間・月間遅刻統計の数値</p>	<p>前年度に比べ、遅刻者数が増加した。</p> <p>また年間遅刻者数が0のクラスもあった。</p>
	<p>転学・退学者数の減少に取り組む</p>	<p>学年ごとに転学・退学者率の減少を図る目標値を設定し、達成に向けて取り組んだ。</p>	<p>転学・退学者率 進級率</p>	<p>全学年で転学・退学者数が減少した。</p>
	<p>生徒リーダーの育成</p>	<p>生徒会活動、クラブ活動、HR活動においてリーダーとなる生徒を育成する。</p> <p>運動部クラブ合同合宿の実施 体育祭における団活動 生徒会行事における行事実行委員</p>	<p>各行事実行委員への参加生徒数(学園祭・体育祭における団活動への参加生徒数含む)</p>	<p>生徒会活動においては、執行部の取り組みが良く取り組み、積極的に行事実行委員として行事に参加する生徒も多く現れた。</p> <p>運動部合同合宿において参加した生徒達から、団活動の団長や協力者が多く現れ生徒の活動が活発化した。</p> <p>体育祭における団活動も、成功することができた。また学園祭と体育祭と連携する団活動の取り組みが行われた。</p>
<p>他者との共生と人権意識の向上</p>	<p>普段からの人権意識の育成と人権HRを通じて他者との共生を図る。</p> <p>1年…視覚障がい・白杖体験、車いす体験。</p> <p>2年…紛争地域における人権をテーマに戦場ジャーナリストを招いての講演を行なう。</p> <p>3年…デートDVについて考える講</p>	<p>人権HRへの生徒参加率とアンケート結果</p>	<p>各学年とも計画通り実施でき、生徒のアンケート結果において、障がいを持つ方の不自由さの理解と対応の仕方を学ぶことができた。紛争地域では、子どもや高齢者、女性の生命や人権が脅かされているこ</p>	

	キャリア教育の実践	<p>演を行なう。</p> <p>キャリア教育年間プログラムにもとづき取り組む。</p> <p>1年では自己発見，2年では自己の進路の方向性を，3年では自己の進路決定を目標に，そして全体を通しては自分のライフプランを計画できる力，自己実現力をつけさせる取り組みを行なう。</p>	<p>キャリア教育アンケート結果</p> <p>キャリアノートへの取り組み状況</p>	<p>と，またデートDVについても理解することが出来た。</p> <p>計画的なキャリア教育の実践ができた。3年生では社会人準備講座として，様々な分野から外部から講師を招き学習を行なった。また，大学・専門学校とも連携を取り，授業体験と学校見学を行った。</p> <p>1年においては自己の発見，2年においては大学や専門学校を使つての進学体験・職業体験を行い，生徒たちは大いに興味を持ったとの結果がでている。</p>
2 生徒の 学力 育成と 進路 保障を 図る	<p>大学進学者数の増加を図る</p> <p>進路未決定率の100%を目指す</p> <p>基礎学力の向上を図る</p>	<p>進路指導・進学指導をしっかりと行い4年制大学進学者数を100名以上とする。</p> <p>卒業時の進路決定率を高める取り組みを行なう。(総合学習・各講習会)</p> <p>全学年を通して基礎学力の向上を図るべく，基礎学力教材の「マナトレ」に授業の一部を割いて取り組む。また進捗により，確認テストを行い，到達</p>	<p>大学進学者数</p> <p>進学者総数</p> <p>進路決定率</p> <p>「マナトレ」の評価 到達度と取り組み 状況</p>	<p>29年度は大学進学者が130名，短期大学進学者12名，，専門学校進学者99名を数え，上級学校への進学者が241名となり増加した。4年制大学進学者についても，100名以上という目標を達成した。</p> <p>キャリア教育推進の効果と進路指導部及び学年教員団の細やかな進路指導をおこなったが，若干名の未決定者が出た。</p> <p>「マナトレ」に取り組むことにより，勉強に取り組む習慣の構築，意識がついてきている。</p>

		<p>度を確認し、不足している生徒には個別に指導にあたる。</p> <p>文理特進コースを中心に、進学講習会、進学合宿、グレードアップセミナーの開講と学習室における自学自習の習慣を養う。</p>	<p>生徒の参加率・出席率</p>	<p>基礎力診断テストの成績評価到達度も改善されてきており、Bゾーンに入る生徒も増加している。講習会・進学合宿については年度当初の計画通り実施できた。</p> <p>グレードアップセミナーについては進学意識の高い生徒が参加し目的は達成できた。</p> <p>学習室については、担当する教員を決め管理し、利用する生徒も学年ごとに担任の指導に従い利用していた。</p>
3 地 域 に 根 付 い た 学 校 を 目 指 す	<p>淀川環境保全活動(CUP)の実施</p> <p>十三地域との連携を図る</p>	<p>毎年実施しているCUP(淀川河川敷の環境保全活動)を実施する。</p> <p>学校、生徒会、PTA、地域団体による取り組みを行なう。</p> <p>CUPのためのフォーラムを開催する。</p> <p>十三地域の諸団体との連携と諸行事への参加</p>	<p>CUPへの生徒参加</p> <p>CUPでの回収ゴミの量</p>	<p>28年度については前日降雨があり、開催当日の会場の足場が悪く環境保全活動(清掃活動)は中止となったが、29年度は実施できた。CUPフォーラムを国土交通省近畿河川事務所と連携を取り実施した。</p> <p>学園祭において地域の小中学生の子供会を招待した。淀川区民祭りへのクラブ行事参加を行なった。</p>

## VI. 今後の目標

生徒が生き生きとした学校生活を過ごせるように、教育・学習活動、生徒指導、特活指導、人権教育、支援教育、キャリア教育の推進と充実を図る方策と体制の確立を目指す。

生徒の人間力・問題解決力を高める取り組みを行い、社会に有用な人材として送り出す取り組みをさらに進めていく。

生徒たちに様々な知的好奇心や関心を持たせるとともに、さらに学校（大学・専門学校）・職業体験等を通してキャリア教育の実践を行い、卒業時における進路決定率をさらに高める取り組みを進める。

入学した生徒に対し、きめ細かく対応し全員を進級・卒業へと導く指導を行なう。

社会的規範を守り、他者に対する慈愛の心に溢れる人権意識の高い生徒の育成に取り組み、苛めのない楽しく学習に取り組める学習環境づくりを進める。

また、平成30年度より「マナトレ」に代わる基礎学力向上・定着のための教材として、順次情報進学および総合進学コースの1年より「すらら」教材を取り入れていくことを決定している。ICT教育との連動を進める。